



いっしょにする！なんとかする！自分発でもくらしー！

県ネット通信

埼玉県市民ネットワーク
共同代表 大野洋子 山田裕子

〒336-0031

さいたま市南区鹿手袋 1-5-3 ひゅうまんポスト内

MAIL saitamaken.shimin.network@gmail.com

URL http://saitamaken-shimin.net/

2017年6月発行 53号

ばらまかれようとしている放射性物質

環境省の動きと問題点を共有しました

5月16日、緊急学習会「ばらまかれる放射性物質」(生活クラブ・埼玉県市民ネットワーク共催)を開催しました。講師は国際環境 NGO FoE ジャパン満田夏花さん。参加者は100名近く。福島原発事故後、大量に発生した除染廃棄物は最大で2200万m³。東京ドーム18個分です。2012年1月施行された放射線物質汚染対策特措法で8000ベクレル/kgは「指定廃棄物」とされましたが通常時100ベクレルとの著しい差が未だに据え置かれています。環境省は2016年6月、8000ベクレル以下の除染土を「全国の公共事業で利用できる方針」を決定し今春、南相馬市で実証実験を行いました。「遮断、飛散・流出防止を行う」としていますが防潮堤や道路から災害時に絶対に露出しないと言えるのでしょうか。放射性物質は集中管理、移動させないのが大原則です。全国にばらまく愚策を看過できません。



国際環境 NGO
FoE ジャパン
満田夏花さん



講演会の様子

行動で放射能の拡散を阻止しましょう

埼玉県ネットワークでは県下水道局に保管されている下水汚泥の放射性物質調査、自治体の除染土状況調査に取り組んできました。これから生活クラブに協力を呼びかけ、県内各自治体に「福島除染土を公共事業に利用する意思があるか」の調査と、各自治体の除染土の状況・保管・処理方法についての調査に取り組みます。また二重基準である特措法の見直し、廃止を働きかけるとともに「放射能汚染防止法」策定にむけて運動を進めていきたいと思えます。放射能は見えないものであるとともに測定積み重ねで可視化できます。調査によって現状を透明にし、課題解決に向けてともに運動していきましょう。

放射能汚染に関する資料 お譲りします



「福島の今とエネルギーの未来～2016-2017」

福島原発事故の被害の状況とエネルギー政策の最新情報をコンパクトにまとめました。
A4 24ページ 発行：国際環境 NGO FoE Japan 価格：300円

公園放射線 MAP12 2016/12-2017/1

越谷・松伏。春日部など埼玉東部の9市町の公園の放射線量を調べたものです。
A5 18ページ 発行：HSF 市民測定所深谷 価格：無料

※ご希望の方は、埼玉県市民ネットワークまたはお近くのネットまでお申し込みください。

除染土についてのネットによる調査結果 担当課の回答

福島県の除染土の再利用の動きについて	担当課の回答				
	情報	所沢市	鶴ヶ島市	越谷市	吉川市
公共事業に使うことは	①国・県から情報あり ②マスコミの情報などで知った ③知らなかった	②マスコミの情報で知った (正確には12月のネットの一般質問で知って調べた)	③知らなかった (ネットの一般質問で知って調べた)	①環境政策課・道路総務課ともに、国からの情報なし	③知らなかった (ネットの一般質問で知って調べた)
公共事業に使うことは	①国の方針が確定すれば利用する ②安全性などをしっかり検討したうえで利用する可能性あり ③住民の健康や不安を尊重しどんな場合も利用しないようにしたい ④その他	④その他 安全性を確認した上で、なおかつ住民の理解を得た上で検討する。	④その他 現時点では、除染土の公共事業での再利用は考えていない。国で取り組んでいる実証実験等の動向を注視している	④その他 国から何も降りてきていないので決めていない	③利用しない 住民の健康や不安を尊重しどんな場合も利用しないようにしたい

6 ネット活動報告 地域でがんばっています

議会のインターネット配信へ まちネット寄居

寄居町の町議会議場へ行って驚くのは、その配置。傍聴席の真下が議員席。声は聞こえども姿は見えぬ。どんな表情で話しているのか、誰が居眠りしているのか、私たちの選んだ議員の顔は見えない。真正面には、ひな壇状態で中央に議長席。その両サイドは執行側の町長他町職員。とても町民の立場にたって作られた議場とは思えない。この形状の議場を改修することは難しいが、老朽化した音響設備等の改修などのために、今年の9月議会で補正予算措置が取られることとなった。やっと寄居ネットが8年前から何度も要望、陳情してきた「本会議のインターネット配信」「常任委員会の公開」などの方向へと動き出した。今年の6月議会へ提出した要望書の回答では、「予算措置も含めて進めていきます」といった文言があった。わたしたちの要望がやっと実現されそう。当初、ある議員から「インターネット配信なんかすると、間違ったことが言えなくなる」などの発言があり驚かされたが、少しでも可視化されることで、各議員たちのレベルアップに繋がっていけばさらに有効な公費となる。常任委員会の傍聴もやっと可能になりそう。過去数回傍聴希望をしたが許可されなかった。その理由が「前例がない」。開かれた議会にしていきますと歴代の議長は言い続けていたのだが。12月議会で詳細が決まる。

<写真 2016年町長選挙 ネット等主催立会演説会 170名参加>



地域協議会で運動の見える化!! 市民ネットワーク鶴ヶ島

鶴ヶ島では、これまでも生活クラブ、ワーカーズ、ネットの三者で協働してきましたが、地域協議会を立ち上げることで、運動の見える化をさらに進めています。

今年度は、メゾン8th アニバーサリーに地域協議会として「福祉」をテーマに参加しました。

夏休みに子どもたちと実施した「バリアフリー調査」のパネルも展示しました。調査のまとめを市に提案したら、さっそく一部改修工事がおこなわれました。

近くの小学校の振替休日に併せた、子どもは無料のカレーランチはスタッフのお子さんだけになってしまいましたが、また、検討したいと考えています。

フードドライブは3日間、メゾンでワーカーズが受け取りました。鶴ヶ島市ではまだ組織的なフードバンクの取り組みはありません。今回、私たちがフードドライブに取り組んだことで、貧困の問題を気にしている市民がいることを知らせることはできたと思います。

ツール（道具）の違う三者での地域協議会で取り組んでみたら、協働する事の意義を実感できました。

「TCKニュース（鶴ヶ島地域協議会ニュース）」を発行して活動を伝えていきます。

また、お祭りに来る人たちとネットの情報交換「セイジのとびら」（わいわいサロン主催）は、議会の話もしながら私たちの活動を伝える場となっています。



新ゴミ処理施設に対する取り組み 生き生きネットワーク鴻巣

現在鴻巣で問題になっているのが、新ゴミ処理施設建設の計画（鴻巣行田北本）です。莫大な費用をかけ、大型の施設を洪水の危険のある場所に建設するという計画に、将来の不安しかありません。環境面も配慮されたコンパクトで長く使える施設建設を実現するため、私たちはゴミの分別、減量を徹底し、市にも働きかけています。しかし、代理人がないため、全くと言っていいほど情報が入ってこないのが現状です。

目の前の功罪だけでなく、子や孫の世代が健やかに暮らせるまちづくりをしていきたいと思えます。

<写真 憲法カフェも開いています 生活クラブ鴻巣支部と共催>



子どもの居場所づくり ネットワーク三芳

子供たちの悲しいニュースを聞くたびにただただ「どうにかならないものだろうか…」と嘆いていた。けど自分たちに無関係な話ではない。すぐ身近にたすけてといっている子がいるのではない。自分たちに何かできないか。

ネットワーク三芳で寺子屋構想が出てから早一年過ぎた。家庭で見る学習、学校での出来事やいろいろなつづやきの聞き役、お腹すいた一の声にお母さんがだすおやつ、そんなことなら人生経験豊富な自分たちにもできるかも。

12月6日（塾カフェひだまり）はまず一歩踏み出した。町の集会所を利用して週1回。集まった子供は1回目5人、2回目6人、3回目7人と少しずつ増えてスタッフは学習支援の勉強をしたり食事のメニューを考えたりで大忙し。私たち一人ひとり、小さいがいろいろな力を持っている。この先その力を効率よく有効に使っていくつもりだ。まずは子供たちとのおしゃべりにたっぷり時間を使っていきたい。

<写真 塾カフェひだまりの様子>



フードバンクの受付をしています 市民ネットワーク所沢

食品ロスは、年間500～800万トン！日本のこめ生産量相当の数字です。

その一方で、格差社会が広がり、子どもの貧困、低所得高齢者、ワーキングプア・・・毎日の食べ物にも事欠く人が増えています。そんな現状を何とかしたいという思いで、安全に食べられるのに破棄される食料を、個人や企業から寄付していただき、支援を必要とする人・場所にお分けしています。以前は市議会で、何度も代理人が一般質問をしてもなかなか理解してもらえないこともありましたが、最近は理解が進み、いろいろな動きが出てきています。

毎月25日と、運営委員会のある第二月曜日は、荷受用の箱を事務所の外に出して、市民の皆さんからの寄付をいただき、集荷場所に運んでいます。

「この赤いのぼりは、通りがかりにいつも見ていたけど、今日初めて伺いました。これでいいでしょうか」と、うどんをもってきてくださった方、ベビーフードを持参された方、もらったお米が食べきれないからと運んでこられた方もいました。ネット通信を見て、遠方からもってきてくださる方もいて、輪が広がっていることを実感します。優しい人がいるのだなと頭が下がります。

これからも、フードバンクとところざわに協力し生活困窮と食品ロスのない社会づくりに、取り組んでいきます。

<写真 会議を終えて事務所できつるぐネット会員>



野党共闘で市民と政党が連続シンポ 越谷市民ネットワーク

国民主権と立憲主義を破壊し、格差貧困を拡大させながらもなお高い支持率をはじき出す「アベ政治」とどう対峙していくのか。越谷ではその議論を地域で起こしていくことなどを目的に、「立憲主義から語る暮らしと政治」というテーマで政党と市民による公開シンポジウムを連続開催しています。実行委員会は個人参加ですが、越谷ネットからも積極的に参加しています。

これまでは、安保法制や参院選における野党共闘などをテーマに民進党、共産党の国政選挙候補予定者、越谷市民ネットワークや無所属の市議、自宅で憲法カフェや選挙カフェを主催する母親など、多彩なメンバーがディスカッションしました。

昨年12月13日に開催されたシンポジウムのパートIIIでは、ベストセラーとなった『下流老人』の著者でNPO法人ほっとプラス代表理事、越谷市在住の藤田孝典さんをお招きして「貧困の連鎖を断ち切るために」と題して、社会保障分野などの「暮らしのテーマでの共闘」を模索する試みを行いました。

安倍政権の下で、拡大する格差と増大する自己責任論を突破するための具体的な方法論として、貧困バッシングが吹き荒れるインターネット上の言論空間を制していくために、SNSの積極的活用などが提起されました。一方で、社会保障の財源を巡って消費税増税への見解などはパネリストの間でも見解が分かれました。今後、同実行委員会では衆院選での統一候補擁立に向けて政策づくりを進める計画です。

<写真 中央市民会館劇場でのシンポジウムパートIII>

